

国語辞典・分類語彙表における形容詞ク形の取り扱いをめぐって

On the Description of the Adjective *-ku* Form  
in Japanese Language Dictionaries and Word List  
by Semantic Principles, Revised and Enlarged Edition

加藤 佳寿美  
KATO, Kazumi

岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要  
第46号 2018年11月 抜刷  
Journal of Humanities and Social Sciences  
Okayama University Vol.46 2018

## 国語辞典・分類語彙表における形容詞ク形の取り扱いをめぐって

On the Description of Adjective *-ku* Form in Japanese Language

Dictionaries and Word List by Semantic Principles, Revised and  
Enlarged Edition

加藤 佳寿美

### 1 はじめに

例えば、形容詞「薄い」は、「支持が薄い」と言えるのに対し、「薄く支持する」と言うことはできない。このようなことを予測するのは難しく、語彙的な現象であるとして、辞典に記述すべきという指摘がある（橋本・青山1992）。また、「長い」のように、終止形では空間的な長さも時間的な長さも表す形容詞が、「長く働く」のように、連用修飾語としては時間的な長さを表し、空間的な長さを表すのは、「髭を長く伸ばす」のように、結果補語として用いる場合に限られるというような現象もある。だが、このような形容詞の終止形と連用形の対応・非対応関係について、総合的な調査を行ったものは、管見の限り見当たらない。

そこで本稿では、その調査の第一段階として、国語辞典類および『分類語彙表 増補改訂版』を対象として、上記のような事実をめぐる形容詞連用形の取り扱いに関する大規模な調査を行った結果を報告し、問題提起を行いたい。

なお、本稿では、「長く」のような形を「連用形」ではなく形容詞の「ク形」と呼ぶ。上にも述べたように、形容詞の連用形は、終止形で使用される場合とは何らかの点で語彙的な意味（の範囲）にずれが生じることがめずらしくない。極端な場合には「恐ろしく」のように大きく意味が変わり、副詞化していると見なすべきものもある。また、副詞化の程度は様々である。「連用形」という用語の使用は、副詞化と矛盾する場合が出てくるので、本稿では、副詞化の予断をもたずに考察をスタートするために、純粋に形式的な観点から形容詞の「ク形」という用語を使用する。

### 2 先行研究—バックハウス (2008)

形容詞ク形と、対応する形容詞の意味の異なりを調べたものとしては、バックハウス (2008) がある。バックハウス (2008) は、辞書は「予想できない、不規則な項目を親見出または子見出しにして取り扱うのが原則」(p. 11) であり、「予想できない要素」としては、特に「理解のレベルの要素」が注目されるという。例えば、国語辞典で「よく」が副詞とされているのは、形容詞「よい」の意味を知っていても、「よく喋る」の「よく」の意味が正確に理解できない点に注目しているためである。

一方で、「予想できない要素」としては「使用のレベル」、つまり使用の制約の問題もあると述べる。日本語で「イギリスに短く住んでいた人」とは言うことができないように、「短い」は具体物・時間の長さに使われるが、「短く」は時間の長さには使われないということを指摘する。

バックハウス（2008）では、そうした「使用のレベル」も視野に入れ、新聞コーパス『CD-毎日新聞1999年版』を用いて、18語の基本的形容詞「大きい／小さい、長い／短い、新しい／古い、いい／悪い、白い／黒い、重い／軽い、寒い、うれしい、早い～速い／遅い、多い／少ない」の形容詞ク形の意味について調べている。その結果、「小さく、短く、古く、よく、軽く、寒く、うれしく、遅く、少なく」の9語に、対応する形容詞に対して意味・用法の範囲が広がる「拡大」や、反対に意味・用法の範囲が狭くなる「縮小」などが見られるとし、そうした不規則性は「日本語の総合的な記述のため、特に日本語学習者のニーズから考えて、辞書に載せるべき情報と思われる」（p. 16）と指摘した。

本稿では、こうしたバックハウス（2008）の問題提起を受け、辞典類における形容詞ク形に関する取り扱いや、記述の実態を調査した結果を報告する。まず次節で、調査概要を述べる。

### 3. 調査の概要

#### 3. 1 調査の対象となるク形の用法

本稿におけるク形の定義は、1.で述べたところであるが、バックハウス（2008）では、ク形の用法を次のように分類している（例文もバックハウス（2008））。本調査では、このうち、「動詞を修飾する用法」のク形を調査対象とする<sup>(1)</sup>。

- ・中止めの用法（「天気がよく、夕日が美しかった」「白く長い布」）
- ・「ある／ない」と結合する用法（「寒くない」）
- ・ク形が動詞の補語となる用法（「寒くなる」「高くする」「大きく見える」など）
- ・変化の結果を表す用法（「黒く焦げる」「短く切る」）
- ・動詞を修飾する用法（「長く住んでいる人」）

#### 3. 2 調査資料

##### 3.2.1 国語辞典類

本調査では、まず、現代語を中心に編集している、比較的小型の国語辞典を対象とした。中型・大型の国語辞典では、意味記述において現代語と古語の意味が混在しているものも多く、現代語の情報のみを抽出することが困難であるからである。

また、編纂者に重複がないことや改訂版が新しいことにも配慮し、下記の表1に示した5種の国語辞典を対象に選んだ。以下、それぞれの国語辞典を『岩波』『旺文社』『三省堂』『新明解』『明鏡』

と略称する。

表1 対象とした国語辞典

辞典名	編纂者	初版/最新	項目数
岩波国語辞典 第七版 新版	西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫	1963/2011	約65,000
旺文社国語辞典 第十一版	山口明穂・和田利政・池田和臣	1960/2013	約83,500
三省堂国語辞典 第七版	見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・ 飯間浩明・塩田雄大	1960/2014	約82,000
新明解国語辞典 第七版	山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・ 山田明雄・上野善道・井島正博・笹原 宏之	1972/2011	約77,500
明鏡国語辞典 第二版	北原保雄	2002/2010	約70,000

### 3.2.2 『分類語彙表 増補改訂版』

『分類語彙表 増補改訂版』（以下『分類語彙表』）は、日本語の語彙を体系的に意味分類したもので、国立国語研究所が実施した、現代語の大規模な用語用字調査の成果の一つである旧版を改訂したものである。旧版には、国立国語研究所報告21『現代雑誌九十種の用語用字』第一分冊（1962）の語彙表のうち、高使用率の7,000語を中心に、これにつづく使用率をもつ5,000語、および坂本一郎氏の『教育基本語彙』（1958）などの語が収められていた。この旧版を改定した『分類語彙表』では、旧版の語を、現代の日常社会で、普通に用いられる語を中心に選定しなおすとともに、新たな語が加えられた。『分類語彙表』の延べ語数は95,811語、異なり語数として79,516語が収録されており、日本語の語彙の使用実態が、よく反映されていると考えられる。『分類語彙表』は、概ね品詞によって語彙が「体」「用」「相」「その他」に大分類されているが、形容詞ク形およびそれに対応する形容詞は、このうちの「相」と「その他」の類に掲載されている。

### 3.3 データの作成方法

まず、調査対象の国語辞典類で、形容詞ク形が見出しまたは子見出し<sup>(2)</sup>として掲載されている項目を目視によって探索し、各項目の記述内容をデータ化した。また、それらのク形に対応する形容詞の見出し項目の記述内容もデータ化した。

『分類語彙表』については、国立国語研究所が公開している『分類語彙表増補改訂版データベース』を全文検索システム「ひまわり」対応にインポートした『分類語彙表』パッケージを利用して、形容詞ク形および対応する形容詞のデータを収集した。

## 4 調査結果

### 4.1 国語辞典類

#### 4.1.1 形容詞ク形および対応する形容詞の掲出状況

5種の辞典の調査によって、78項目の形容詞ク形見出しおよび子見出しを得ることができた。それぞれの形容詞ク形は、対応する形容詞の見出しの有無によって、以下の二類に分かれる。

- ① 対応する形容詞の見出し掲載があるもの…「あぶなく」「あやうく」など
- ② 対応する形容詞の見出し掲載がないもの…「あししげく」「あまねく」など

表2は、5種の辞典に掲出された形容詞ク形の見出しを、①と②の別とともに一覧したものである。なお、「しるく」のように、対応する形容詞の見出しが「-し」という古代語であるものについては、見出し掲載があっても②と扱った。①②の右には品詞に関する情報を注記した。「副」は品詞が副詞とされたものである。「形」は品詞の表示がなく「形容詞の連用形」と説明されているもので、「\*」は、単純語ではなく、連語や句の扱いになっていることを示す。なお、『旺文社』では、名詞・連語扱いとする場合、文法情報を省略するというルールがあるため、表2の注記のないク形は連語と見なされていると考えられる。

表2 5種の国語辞典における形容詞ク形見出しの掲出状況

No.	ク形見出し	岩波	旺文社	三省堂	新明解	明鏡
1	あししげく	②*	②	②副	②副	②副
2	あぶなく		①副	①形		
3	あますところなく		②			②*
4	あまねく	②副	②副	②副	②副	②副
5	あやうく	①	①副	①形	①副	
6	いかななく	②*	②	②副	②副	②副
7	いきおひよく					②副
8	いくばくもなく	②*	②			
9	いくひさしく	②*	②副	②副	②副	②副
10	いせいよく					②副
11	いたく	①副	①副	①副	①副	①副
12	いちはやく	②副	②副	②副	②副	②副
13	いちもにもなく		②	②*	②	②
14	いやもおうもなく			②*		
15	いやおうなく			②副		
16	うまく				①副	①副
17	えらく			①副		
18	えんりよなく					②*
19	えんりよえしゃくもなく			②*		
20	おおく	①	①副	①副	①副	①副
21	おそく				①副	

22	おたかく	②		②副		
23	おなじく			①副	①副	①副
24	おりあしく	②*	②	②副	②副	②副
25	おりよく		②	②副	②副	②副
26	おりわるく			②副		
27	くちあらく	②*				
28	くちずっぱく			②副	②副	
29	くまなく	②*	①副	②副	②副	②副
30	くもなく			②副		
31	こころおきなく		②副	②副	②副	②副
32	ことなく	②*		②副	②副	
33	こよなく	②副	②副	②副		
34	しかるべく		②副	②*	②副	②*
35	しげく	②副	②副	②副	②副	
36	したしく	①	①副	①形	①副	
37	しゅびよく		②副	②副	②副	
38	しょうこりもなく		②			
39	しるく		②副	②形	②形	
40	すえながく	②*	②副		②副	②副
41	すごく			①形	①副	
42	そこはかとなく		②副		②副	
43	そつなく			②*		
44	それとなく	②*	②	②副	②副	②副
45	だれいうとなく			②*		
46	ちかく	①	①副	①副	①副	①副
47	ちょうしよく			①副	②	
48	ていよく	②*	②副	②副	②副	②副
49	てもなく	②*	②副	②副	②副	②副
50	とおく	①	①副	①副	①副	①副
51	とく	②副	②副	②形	②副	②副
52	どことなく		②	②副	②副	②副
53	とつく	②			②副	
54	なかよく			②副		②副
55	なにくれとなく		②	②副		
56	なにごころなく				②副	
57	なにとなく	②*				
58	なにふじゆうなく			②*		
59	なるべく	②副	②副	②副	②副	②副
60	なんとなく	②*	②副	②副	②副	②副
61	なんなく	②*	②副	②副	②副	②副
62	はやく	①	①副	①副	①副	①副
63	ひどく				①副	①副
64	ひとしく			①形	①副	①副
65	ひらたく				①副	
66	ふるく	①	①副	①副	①副	①副
67	ほどなく	②*	②副	②副	②副	②副
68	まさしく	①副	②副	②副	②副	②副
69	まったく	①副	①副	①副	①副	②副
70	まもなく		②副	②副	②副	②副

71	まんべんなく	②副	②副	②副	②副	②副
72	もれなく		②副	②副		
73	やむなく			②副		②副
74	ゆくりなく	②副	②副	②副	②副	②副
75	よく	①副	①副	①副	①副	①副
76	よろしく	①副	①副	①副	①副	①副
77	われともなく			②*		
78	われにもなく		②	②*	②	
	掲載項目数	38	48	62	53	45
	(①の項目数/②の項目数)	(12/26)	(13/35)	(17/45)	(18/35)	(12/33)

※『三省堂』の「ちょうしょく」を①としたのは「ちょうしがいい」の項目があるためである。

まず、表2のように、5種の辞典のク形見出しの掲載項目数は、辞典により異なっており、少ないもので38項目、多いもので62項目であった。すべての辞典で、見出しとして掲載されているク形は27項目である。対応する形容詞見出しの有無については、いずれの辞典でも、対応する形容詞見出しがあるもの(①)よりも、対応する形容詞見出しがないもの(②)のほうが多いということがわかる。

また、国語辞典類では、表2のようにク形の品詞を副詞とするものが多く見られる。なかでも『新明解』と『明鏡』は、①、②のいずれもク形のほとんどを副詞として扱い、品詞の表示がないものは、4項目のみとなっている。これらは、注記はないが、連語と見なしているものもあると思われる。

一方、『岩波』『三省堂』では、副詞と表示しない場合が比較的多い。『三省堂』では、①の「あぶなく、あやうく、したしく、すごく、ひとしく」の5項目、②の「しるく、とく」の2項目に品詞の表示がないが、「形容詞～の連用形」という注記があり、実質は形容詞と見られている。『岩波』は、①の7項目「あやうく、おおく、したしく、ちかく、とおく、はやく、ふるく」の品詞を表示せず、そのうち「あやうく、したしく、はやく」は、対応する形容詞の意味を参照する形式をとっている。「おおく、ちかく、とおく、ふるく」には、語源として「形容詞～の連用形から」と説明があるが、品詞の表示がないのは、これらが副詞的用法と名詞用法をもつことが関係していると思われる。

国語辞典類において、②に該当するク形が、見出しとして掲出されるのは当然であるが、①に該当するク形については、これらを見出しとして掲出するための基準は、どのようなものであるのだろうか。つまり、形容詞としても見出しが立てられているなら、なぜ、それとは別にク形の見出しを立てる必要があるのかということである。以下では、意味の対応関係の観点から、この問題について検討する。

## 4.1.2 形容詞ク形の意味記述

国語辞典類における形容詞ク形の項目の意味記述と、対応する形容詞の項目の意味記述との関係を、以下のように分類し、意味記述の実態を調査した。

- A ク形の意味記述が対応する形容詞の意味記述と完全に対応するもの
- B ク形の意味記述が対応する形容詞の意味記述と関連するもの
- C ク形の意味記述が対応する形容詞の意味記述とまったく対応しないもの

Aは完全対応、Cは完全不对応、Bはその中間である。それぞれ、どのようなケースであるかは、あとで具体的に説明する。

各辞典の①の形容詞ク形の意味記述に関する調査の結果を表3に示す。

表3 ①の形容詞ク形と対応する形容詞の意味対応

No.	ク形見出し	岩波	旺文社	三省堂	新明解	明鏡
1	あぶなく		C	B		
2	あやうく	B	C	B	B	
3	いたく	B	C	C	C	C
4	うまく				C	B
5	えらく			B		
6	おおく	B	C	C	B	B
7	おそく				B	
8	おなじく			B	B	B
9	くまなく		B			
10	したしく	B	C	C	C	
11	すごく			B	B	
12	ちかく	B	B	B	B	B
13	ちょうしよく			B		
14	とおく	B	B	B	B	B
15	はやく	B	B	B	B	B
16	ひどく				B	B
17	ひとしく			B	B	B
18	ひらたく				C	
19	ふるく	B	B	B	B	B
20	まさしく	B				
21	まったく	B	B	B	C	
22	よく	B	B	B	B	B
23	よろしく	B	B	B	B	B

まず、Aに該当する項目はない。意味記述が完全に対応するなら、あえてク形を立項する必要はないわけであるから、当然であるといえよう。

次にCに該当する項目数は、のべ14項目である。『三省堂』の「いたく」「いたい」の語義を例と



して挙げる。あまり多くないが、これらのク形は立項されてしかるべきである。

「いたく」 はなはだ。ひじょうに。たいそう。

「いたい」 (1)けがや病気でからだの部分がつかなくて、がまんできなくなる感じだ。

(2) [損害をこうむって] つらい。

(3)弱点をつかれて、まいった状態だ。

(4) [俗] ぶざままで痛々しいようすだ。

Cのク形の品詞は、本来副詞と表示されるべきであるが、『三省堂』の「したしく」は品詞の記載がなく、「形容詞の連用形」と説明されている。他の13項目は副詞と表示されている。

Bは、ク形の意味記述と対応する形容詞の意味記述の間に関連を見出すことができる場合であり、のべ58項目に上る。Bには、以下の三つのタイプがある。

- B① ク形の意味記述と対応する形容詞の意味記述との間に何らかの共通性があると認められるもの
- B② ク形の意味記述が対応する形容詞の意味記述と一部対応し、対応する意味記述に「連用形で」などの注記があるもの
- B③ ク形の項目には意味記述がなく、対応する形容詞の意味記述の一部を参照させるもの

まず、B①は意味記述の内容において、ク形と対応する形容詞の間に共通性が見られる場合であり、のべ52項目と最も多く、『岩波』以外の国語辞典類のBは、このB①にあたる。例として、『三省堂』の「あぶなく」と「あぶない」、「すごく」と「すごい」の語義を取り上げて比較してみる。

「あぶなく」 もうすこし（のところで）。あわや。あやうく。

「あぶない」 けがをしたり、死んだり、損をしたりしそう（で心配）だ。

「すごく」 ひじょうに。たいへん。すごい。

「すごい」 (1)おそろしくて、ぞっとするような感じだ。

(2)力や程度がはなはだしい。おどろくほどだ。

「あぶなく」と「あぶない」には「危険性」という点での共通性も見られるが、「もうすこしで」にあたるものは「あぶない」にはない。したがって、「あぶなく」を立項することは必要である。また、「すごく」には、「すごい」の(1)にあたる意味の記述がない。(2)のような程度の意味は共通するが「すごく」には「力がはなはだしい」にあたる意味はない。したがって、これについても立項

することには意味がある。B①は、このように、ク形と対応する形容詞の意味に、共通性があるが全面的に一致しているとは言い難いと判断したものである。

次にB②としたのは、ク形に対応する形容詞の項目の意味記述の中で、特にそれがク形（連用形）の意味であることを注記しているケースである。これは『岩波』にしか見られず、「まさしく、よく」の2項目である。このケースでは、ク形の品詞の表示や、ク形の意味記述と対応する形容詞の意味項目の記述が完全に一致するかが問題となる。例として「まさしく」「まさしい」の語義と解説をあげる。

「まさしく」 間違いなく。確かに。

「まさしい」 まさにそれだ。正当・本当の名に備する。▷今日多くは「-く」の形で使う。「ただしい」と読めば別の意

「まさしく」は『岩波』で副詞とされている。「間違いがない」という意味では「まさしい」との共通性が見られるが、「まさしく」に「正当」のような意味があるかわからない。また『岩波』以外の辞典類では「まさしく」は②に分類されたク形であり、副詞として転成しつつあるものと思われる。そのため「まさしく」は立項されることが望ましいと思われる。

B③は、ク形を空見出しとして立て、形容詞の項目を参照するよう指示しているケースである。このケースも『岩波』に特有であり、「あやうく、いたく、したしく、はやく」がそれにあたる。「いたく」は副詞とされており、他は品詞の表示がない。以下に『岩波』の「あやうく」と、対応する形容詞「あやうい」の語義を示す。

「あやうく」→あやうい(2)

「あやうい」①物や事の存在がおびやかされ、くずれ去りそうな（心を痛める）状態だ。

②もう少しというわずかの差で。

ア.《「-く…ところ（だ）」の形で》すんでの事。

イ.《連用形や、「-とこで」「-ところを」の形で》かろうじて。やっとの事で。

ただし、国語辞典類が、形容詞の意味からク形の意味が予想できないケースのすべてについて、ク形を立項しているわけでないことは明らかである。例えば、バックハウス（2008）では、「小さく、短く、古く、よく、軽く、うれしく、遅く、少なく」は意味の拡大あるいは縮小を起こしていることを指摘しているが、国語辞典類には「おそく、ふるく、よく」以外は形容詞ク形として立項されていない。

## 4.2 『分類語彙表 増補改訂版』

### 4.2.1 形容詞ク形と対応する形容詞の掲出状況

『分類語彙表』の調査では、「相の類（形容詞・副詞等）」と「その他の類（一部の副詞・接続詞・感動詞）」から、90語の形容詞ク形が収集できた。それらのリストを、対応する形容詞の掲出状況①②の別とともに、表4に示す。連語には☆、合成語には○を付してある<sup>(3)</sup>。なお、「あいそよく」と「あいそがよい」のように、助詞の有無が異なる場合もあるが、一応、それらも①と判断している。

- ①対応する形容詞（一い）が掲出されているもの
- ②対応する形容詞（一い）が掲出されていないもの

表4 『分類語彙表』における形容詞ク形の掲出状況

No	ク形	No	ク形	No	ク形	
1	あいそよく☆	① 31	あししげく☆	② 61	それどころではなく	②
2	あぶなく	① 32	あてもなく☆	② 62	それとなく☆	②
3	あやうく	① 33	あますところなく☆	② 63	そればかりではなく	②
4	あわただしく	① 34	あまねく	② 64	たいかなく☆	②
5	いうまでもなく☆	① 35	いかなく☆	② 65	ちたいなく☆	②
6	いたく	① 36	いくどとなく☆	② 66	てもなく☆	②
7	いちはやく○	① 37	いくひさしく○	② 67	とく	②
8	いちもにもなく☆	① 38	いつとなく☆	② 68	どことなく☆	②
9	うんよく☆	① 39	いやもおうもなく☆	② 69	とどこおりなく☆	②
10	うんわるく☆	① 40	えんりょえしゃくもなく☆	② 70	とめどなく☆	②
11	えらく	① 41	おくめんもなく☆	② 71	なさけようしゃもなく☆	②
12	えんりょなく☆	① 42	おしげもなく☆	② 72	なるべく☆	②
13	おおく	① 43	おなじく	② 73	なんとなく☆	②
14	おもいがけなく☆	① 44	おりあしく☆	② 74	なんなく○	②
15	ぐあいよく☆	① 45	おりよく☆	② 75	のこりなく☆	②
16	げんきよく☆	① 46	かげひなたなく☆	② 76	ふくむところなく☆	②
17	したしく	① 47	かんだんなく☆	② 77	ほどなく☆	②
18	ちかく	① 48	きたんなく☆	② 78	まさしく	②
19	つごうよく☆	① 49	くまなく○	② 79	まちがいなく☆	②
20	つつがなく○	① 50	くもなく☆	② 80	まったく	②
21	ていよく☆	① 51	ごえんりょなく☆	② 81	まもなく☆	②
22	なかよく○	① 52	こころおきなく☆	② 82	まんべんなく☆	②
23	はやく	① 53	ことなく☆	② 83	もれなく☆	②
24	ひさしく	① 54	こんきよく☆	② 84	やくせきこうなく☆	②
25	ひどく	① 55	しかるべく☆	② 85	やむなく○	②
26	ひとしく	① 56	しげく	② 86	ゆくりなく	②
27	まごうかたなく☆	① 57	しゅびよく☆	② 87	ようしゃなく☆	②
28	むなしく	① 58	しょうこりもなく☆	② 88	よどみなく☆	②
29	よく	① 59	すえながく☆	② 89	れいがいなく☆	②
30	よろしく	① 60	そこはかとなく☆	② 90	われにもなく☆	②

『分類語彙表』においても、①が30語、②が60語で、②が多い。また、国語辞典のク形の場合と比べて連語が多く、61語見られる。

#### 4.2.2 形容詞ク形の意味分類

『分類語彙表』の分類項目を示す番号には、「部門」や「中項目」に対応する部分がある。例えば、「あぶなく」の分類番号「3.1670」は、「3」の部分が類（相）を表し、つづく「1」の部分が部門（抽象的關係）を、「16」の部分が中項目（時間）を示している。これらの全体を分類項目というが、特に中項目より下位の項目を指すときは「下位項目」と呼ぶことにしたい。

ここでは①の30語を取り上げ、形容詞ク形と、対応する形容詞がそれぞれどの部門<sup>(4)</sup>・中項目・下位項目に分類されているかを表5に示す。なお、「対応」欄の記号の意味は次のとおりである。

- A 形容詞ク形と対応する形容詞がまったく同じ分類項目に分類されている。
- B 形容詞ク形と対応する形容詞が同じ分類項目に分類されているとともに、違う分類項目にも分類されている。
- C 形容詞ク形と対応する形容詞の分類が中項目まで一致しているが、下位項目は異なっている。
- D 形容詞ク形と対応する形容詞が異なる分類項目に分類されている。

表5 『分類語彙表』における形容詞ク形と対応する形容詞の分類項目

語彙	ク形	形容詞	対応
あいそよく	精神および行為/心/表情・態度	精神および行為/心/情・態度	A
いちはやく	抽象的關係/時間/即時	抽象的關係/時間/即時	A
えんりょなく	精神および行為/待遇/待遇・礼など	精神および行為/待遇/待遇・礼など	A
ぐあいよく	抽象的關係/様相/趣・調子	抽象的關係/様相/趣・調子	A
ていよく	抽象的關係/様相/良不良・適不適	抽象的關係/様相/良不良・適不適	A
ひさしく	抽象的關係/時間/時間	抽象的關係/時間/時間	A
ひとしく	抽象的關係/類/異同・類似	抽象的關係/類/異同・類似	A
まごうかたなく	抽象的關係/真偽/真偽・是非	抽象的關係/真偽/真偽・是非	A
うんよく	抽象的關係/時間/時機 精神および行為/生活/人生・禍福	精神および行為/生活/人生・禍福	B
うんわるく	抽象的關係/時間/時機 精神および行為/生活/人生・禍福	精神および行為/生活/人生・禍福	B
えらく	抽象的關係/量/程度	抽象的關係/量/程度 精神および行為/行為/威厳・行儀・品行	B
げんきよく	自然現象/生命/生理・病気など	精神および行為/行為/行為・活動 自然現象/生命/生理・病気など	B
ちかく	抽象的關係/時間/未来	抽象的關係/類/關係 抽象的關係/類/異同・類似 抽象的關係/時間/未来 抽象的關係/量/長短・高低・深淺・厚薄・遠近	B

なかよく	精神および行為/心/好悪・愛憎 精神および行為/交わり/交わり	精神および行為/交わり/交わり	B
よく	抽象的關係/様相/良不良・適不適 抽象的關係/時間/毎日・毎度 抽象的關係/量/限度	抽象的關係/様相/良不良・適不適	B
いちにももなく	抽象的關係/類/因果 抽象的關係/時間/即時	抽象的關係/類/異同・類似	C
したしく	精神および行為/心/意志	精神および行為/心/好悪・愛憎 精神および行為/交わり/交わり	C
はやく	抽象的關係/時間/過去	抽象的關係/時間/新旧・遅速 抽象的關係/量/速度	C
あぶなく	抽象的關係/時間/時間的前後	抽象的關係/様相/難易・安危	D
あやうく	抽象的關係/時間/時間的前後	抽象的關係/様相/難易・安危	D
あわただしく	抽象的關係/時間/時機	抽象的關係/量/速度 精神および行為/生活/労働・作業・休暇	D
いうまでもなく	(その他) // 判断/判断	精神および行為/心/詳細・正確・不思議	D
いたく	抽象的關係/量/程度	精神および行為/心/感覚	D
おおく	抽象的關係/時間/毎日・毎度	抽象的關係/量/多少	D
おもいがけなく	(その他) // 判断/予期	精神および行為/心/判断・推測・評価	D
つごうよく	抽象的關係/時間/時機	抽象的關係/様相/趣・調子	D
つつがなく	自然現象/生命/生理・病気など	抽象的關係/様相/難易・安危	D
ひどく	抽象的關係/量/程度	精神および行為/心/恐れ・怒り・悔しさ 精神および行為/待遇/待遇・礼など	D
むなしく	抽象的關係/類/因果	抽象的關係/存在/存在	D
よろしく	(その他) // 判断/希望 (その他) // 挨拶/挨拶語	抽象的關係/様相/良不良・適不適	D

Aは8語、Bは7語、Cは3語、Dは12語である。B～Dのケースでは、部分的あるいは全面的に分類項目が異なっており、形容詞とは別に、ク形を語彙として掲出する必然性があると言えよう。Aのケースについては、語彙の意味の分類が異ならないにもかかわらず、ク形が独立した語彙として掲出されている理由を探る必要がある。これについては、5節で述べたい。

では、B～Dについて、ク形と形容詞の分類項目の対応関係について、何らかの法則性が見られないかを検討する。まず、Aと比較するとB～Dの分類項目は複数あるものが多い。表6にB～Dの分類項目に、特徴的に見られたものを対比的にまとめた。

表6 形容詞ク形と対応する形容詞の分類項目の特徴

	B	C	D
ク形	抽象的關係/時間 57% 精神および行為 43%	抽象的關係/時間 67%	抽象的關係/時間 42% 精神および行為/心 0% その他の類 25%
形容詞	抽象的關係/時間 14% 精神および行為 71% (下位項目はばらつきがある)	抽象的關係/時間 33% 分類項目にばらつきがある	抽象的關係/様相 42% (時間 0%) 精神および行為/心 33% その他の類 0%

今回取り上げたものにおいて、ク形では「抽象的關係／時間」が多く、形容詞は「精神および行為」が多いと言える。Cは数が少ないのでク形と形容詞の異なりが捉えにくい、BとDから形容詞の表す意味とク形の表す意味には一定の異なりが窺える。

続いて、②に分類された語彙の分類項目についても簡単に見ておきたい。『分類語彙表』②の60語のク形によく現れた分類項目は「精神および行為／心」が14、「抽象的關係／時間」が13、「抽象的關係／量」が11、「抽象的關係／様相」が9であり、「抽象的關係」を表すものが「精神および行為」表すものより多かった。

## 5 総括

以上、国語辞典類と『分類語彙表』を資料として、Ⅰ)ク形の掲出状況、Ⅱ)対応する形容詞の掲出状況、Ⅲ)両者の意味記述(意味分類)の関係について調査した結果を報告した。最後に、これらの調査結果を総括する。

まず、Ⅰ)ク形の掲出状況とⅡ)対応する形容詞の掲出状況は、表7のとおりであった。

表7 国語辞典類、『分類語彙表』におけるク形の掲出状況

	国語辞典類	『分類語彙表』
ク形の項目・語彙の掲出数	38～62	90
対応する形容詞の掲出があるク形数	12～18 (27～34%)	30 (33%)
対応する形容詞の掲出がないク形数	26～45 (66～73%)	60 (67%)

Ⅰ)ク形の掲出状況については、辞典類よりも『分類語彙表』の掲出語彙が多いという結果になった。ただし、バックハウス(2008)の指摘に照らしても、ク形の掲出は十分ではないと思われる。どの程度足りないかについては、今後、検討が必要である。

Ⅱ)対応する形容詞の掲出状況については、対応する形容詞の掲出がない場合が多いことから、ク形の掲出にあたっては、副詞であることが第一条件となっていると考えられる。国語辞典類の対応する形容詞のないク形はのべ55項目で、『分類語彙表』は60語であるが、このうち、以下の32のク形が一致している。これらは、合成語・連語や古代語の形容詞の連用形のみが副詞として残ったものである。

あししげく、あますところなく、あまねく、いかななく、いくひさしく、いやもおうもなく、えんりよえしゃくもなく、おりあしく、おりよく、くもなく、こころおきなく、ことなく、しかるべく、しげく、しゅびよく、しょうこりもなく、すえながく、そこはかとなく、それとな

く、てもなく、とく、どことなく、なるべく、なんとなく、なんなく、ほどなく、まもなく、まんべんなく、もれなく、やむなく、ゆくりなく、われにもなく

対応する形容詞の掲出がある場合、なぜ形容詞とは別にク形を掲出する必要があるかが問われることになる。それを検討するために、Ⅲ) 両者の意味記述（意味分類）の関係を調査した。すなわち、あえて形容詞とは別にク形を見出しや語彙として掲出するからには、形容詞とは異なる意味で使用されることがあると想定される。そこで、ク形と形容詞の意味記述や分類項目が、

- ①完全に一致する
- ②関連をもつ
- ③完全に異なる

という観点から、各資料の調査結果を比較するために、表8を提示する。なお、『分類語彙表』のAは①に、Bは②に、C・Dは③に対応する。

表8 ク形と形容詞の意味記述（分類）の対応関係の比較（比率）

	岩波	旺文社	三省堂	新明解	明鏡	分類語彙表
①一致	0%	0%	0%	0%	0%	27%
②関連をもつ	100%	62%	82%	72%	92%	23%
③相違	0%	38%	18%	28%	8%	50%

表8から、今回取り上げた国語辞典類には、形容詞と意味が関連するク形、および全面的に異なるク形が多く掲出されていると言え、取り上げるべきものが取り上げられていることがわかった。『分類語彙表』では、一致するものが27%もあるが、考えられる理由については後述する。

次に、各資料でク形と形容詞が共存する語彙のリストを表9に示す。下線は、国語辞典類と『分類語彙表』の間で共通する語彙である。

表9 ク形と形容詞の意味記述(分類)の対応関係の比較(語彙)

資料		①一致	②関連をもつ	③相違
国語辞典	岩波	-	<u>あやうく</u> , <u>いたく</u> , <u>おおく</u> , <u>したしく</u> , <u>ちかく</u> , <u>とおく</u> , <u>はやく</u> , <u>ふるく</u> , <u>まさしく</u> <u>まったく</u> , <u>よく</u> , <u>よろしく</u>	-
	旺文社	-	<u>くまなく</u> , <u>ちかく</u> , <u>とおく</u> , <u>はやく</u> , <u>ふるく</u> , <u>まったく</u> , <u>よく</u> , <u>よろしく</u>	<u>あぶなく</u> , <u>あやうく</u> , <u>いた</u> <u>く</u> , <u>おおく</u> , <u>したしく</u>
	三省堂	-	<u>あぶなく</u> , <u>あやうく</u> , <u>えら</u> <u>く</u> , <u>おなじく</u> , <u>すごく</u> , <u>ち</u> <u>かく</u> , <u>ちょうしょく</u> , <u>とおく</u> , <u>はやく</u> , <u>ひとしく</u> , <u>ふるく</u> , <u>まったく</u> , <u>よく</u> , <u>よろしく</u>	<u>いたく</u> , <u>おおく</u> , <u>したしく</u>
	新明解	-	<u>あやうく</u> , <u>おおく</u> , <u>おそく</u> , <u>おなじく</u> , <u>すごく</u> , <u>ちかく</u> , <u>とおく</u> , <u>はやく</u> , <u>ひどく</u> , <u>ひとしく</u> , <u>ふるく</u> , <u>よく</u> , <u>よろしく</u>	<u>いたく</u> , <u>うまく</u> , <u>したしく</u> , <u>ひらたく</u> , <u>まったく</u>
	明鏡	-	<u>うまく</u> , <u>おおく</u> , <u>おなじく</u> , <u>ちかく</u> , <u>とおく</u> , <u>はやく</u> , <u>ひどく</u> , <u>ひとしく</u> , <u>ふるく</u> , <u>よく</u> , <u>よろしく</u>	<u>いたく</u>
分類語彙表	あいそよく, いちはやく, えんりよなく, ぐあいよく, ていよく, ひさしく, <u>ひとしく</u> , まごうかたなく	<u>うんよく</u> , <u>うんわるく</u> , <u>えらく</u> , <u>げんきよく</u> , <u>ちか</u> <u>く</u> , <u>なかよく</u> , <u>よく</u>	<u>あぶなく</u> , <u>あやうく</u> , <u>あ</u> <u>わただしく</u> , <u>いうまでも</u> <u>なく</u> , <u>いちもにもなく</u> , <u>いたく</u> , <u>おおく</u> , <u>おもいがけなく</u> , <u>したしく</u> , <u>つごうよく</u> , <u>つつがなく</u> , <u>はやく</u> , <u>ひど</u> <u>く</u> , <u>むなしく</u> , <u>よろしく</u>	

はじめに、両者の意味が一致している場合についてであるが、これはク形を掲出する必要性は低いと言えよう。このケースにあたるのは表8の①「一致」に示した通り、国語辞典類は0項目(0%)、『分類語彙表』は8語(27%)であり、国語辞典類に掲出はないが、『分類語彙表』は少なくないことが分かる。『分類語彙表』に掲出された①の語彙には、「あいそよく」「ぐあいよく」「ていよく」のように、終止用法では「が・の」が必要になるものがあり、それらは、形容詞とは形が異なるので、ク形の掲出は必要である。

また、「いちはやく」「えんりよなく」「まごうかたなく」は、むしろ形容詞(一い)としての掲出が必要であるかが問題となろう。BCCWJでこれらを検索すると、「いちはやく」は624例見つ



るが、「いちはやい」は2例しかない。また、「えんりよなく」が221例あるのに対して、「えんりよない」は1例である。つまり、これらは形容詞としての使用はあまりなく、ク形としての使用が多い。「まごうかたなく」「まごうかたない」はそれぞれ4例見つかるが、終止用法の例はない。

これらを除くと、「ひさしく」「ひとしく」の2語に止まる。国語辞典では「ひさしく」は掲出がないが、「ひとしく」はBに属している。「ひとしく」と「ひとしい」について、『三省堂』でそれぞれの語義を確認すると、「ひとしく」は「どれもおなじく」とあり、「ひとしい」は「二つ（以上）のものごとをくらべたときに変わりがない」となっている。『新明解』『明鏡』でも、「ひとしく」は「すべてのもの」「いずれも」が同じような様を表す意味であるのに対し、「ひとしい」は「二つ（以上）」のものが同一である様を表す意味となっている。ここには「すべて」か「二つ（以上）」か、という対象の異なりがあり、同じ分類項目にあるが、完全に一致するものではなく、厳密には意味が異なるものと考えられる

これと反対に、両者の意味が全面的に異なるなら、それはもはや別語であり、③のケースがク形を掲出する必要性が最も高いと言える。国語辞典類は0～5項目（0～38%）、『分類語彙表』は15語（50%）である。資料間での④の語彙の一致をみると、「あぶなく」「あやうく」「いたく」「おおく」「したしく」が共通する。

問題は、②のク形と形容詞の意味に関連がある場合である。このケースは、表8に表したように、国語辞典類が8～14項目（62～100%）、『分類語彙表』が7語（23%）である。このようなク形は、国語辞典類の間で一致しているものがいくつか見られるが、国語辞典類と『分類語彙表』で共通するのは、「ちかく」「よく」の2語にすぎない。

国語辞典類と『分類語彙表』で取り上げられたク形を比較すると、『分類語彙表』にあるク形の「いちにもなく」「あわただしく」「いうまでもなく」「おもいがけなく」「つつがなく」「なかよく」「むなしく」は、国語辞典には形容詞の項目のみがあり、ク形見出しがないなど、見逃せない相違もある。

最後に、「あてもなく」「いうまでもなく」などの連語の掲出は、国語辞典類が55%<sup>(5)</sup>、『分類語彙表』が68%である。いずれも過半数であるが、特に後者に目立つ。

## 6 おわりに

以上、本稿では、国語辞典類と『分類語彙表』における形容詞ク形と対応する形容詞の掲出状況、および両者における意味記述・意味分類の対応を調査し、その結果を報告した。実際に取り上げられている項目・語彙の多くは、副詞として認定できるものであり、それらについては、ク形掲出の根拠が十分に認められるが、ク形と形容詞の項目・語彙が併存している場合も少なくなく、その場合、併存させる基準が一貫しているとは言い難い。

本稿では、ク形の掲出状況の調査から出発したが、今後は、形容詞の項目・語彙を網羅的に調査

することによって、各資料におけるク形の掲出状況についての客観的な評価を行う必要がある。また、コーパス調査を通じて、実際の使用の中でク形と形容詞の意味の関係を考察することも必要である。それらの結果を踏まえて、辞典類でク形をどのように扱うべきかについて結論を導きたいと思う。

## 注

- (1)「まったく話にならない」のように、ク形には陳述副詞化したものもあるが、ここではそのようなものは対象とはせず、述語を修飾するものを対象とした。
- (2)子見出しとは、見出しの下に配列された、見出し語を含む複合語などを示す追い込み項目を指す。
- (3)『分類語彙表』のク形について、「連語」と「合成語」の区別は、国立国語研究所が公開している「中納言コーパス検索アプリケーション」を用い、語彙素が一語と認められているものを合成語とし、二語以上のものは連語として扱った。
- (4)「部門」の名称については『分類語彙表 増補改訂版』書籍版に従う。
- (5)国語辞典類の連語は、辞典により連語とするものが異なるため、ここでは複数の構成要素から成るものを連語と考え、述べ項目中の連語の割合を算出した。

## 参考文献

- (1)現代日本語書き言葉均衡コーパス <<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>> (2017年11月26日)
- (2)橋本三奈子・青山文啓 (1992)「形容詞の三つの用法：終止、連体、連用」『計量国語学』18-5, 201-214
- (3)バックハウス・アンソニー・E (2008)「形容詞の「ク形」を辞書に載せるべきか」『北海道大学留学生センター紀要』11, 9-18

## 資料

- (1)北原保雄編 (2011)『明鏡国語辞典第二版』大修館
- (2)見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大編 (2014)『三省堂国語辞典第七版』三省堂
- (3)国立国語研究所編 (2004)『国立国語研究所資料集14 分類語彙表増補改訂版』大日本図書
- (4)西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫編 (2011)『岩波国語辞典第七版新版』岩波書店
- (5)山口明穂・和田利政・池田和臣編 (2013)『旺文社国語辞典第十一版』旺文社
- (6)山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原宏之編 (2013)『新明解国語辞典第七版』三省堂